

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

《医療系》

●新潟大学医歯学総合研究科口腔生命科学専攻

「プロジェクト所属による大学院教育の実質化」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

専攻共通科目として、Professional writing & reading ならびに実践統計学ベーシックコースを新規に開講したが、前者では英語基礎能力が劣る学生の受講による演習進度の遅延、各人の到達度のアンバランスがあり、また後者では受講者のほとんどが日本人であったため、留学生への学修支援が困難であった。また、一部の社会人学生ではこれら新科目の受講が困難であった。

(苦労したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

Professional writing & reading では英語基礎学力が劣る学生が存在すること、writing を学士課程教育で十分実施されていないことが考えられ、教育内容のレベルリングを担保するのが困難であった。留学生への英語による実践統計学ベーシックコースは日本語と英語による複数回開講をせざるを得ず、教員の負担が大であった。社会人学生に対しては同一時限での聴講が難しく、デジタルコンテンツを用いた講義を多用せざるを得なかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

英語に関しては講師の努力により、ある一定のレベルまで英語力の向上が図られたが、一部の学生では必ずしも科目の到達目標最低限に留まるものも認められ、入試における基礎学力の確認の厳格化をせざるを得ないと考えられた。実践統計学ベーシックコースでは教員の負担が大きくなったが、英語での講義をお願いし、留学生教育にあたった。留学生、社会人向けの特別コースの設定、デジタルコンテンツ化の促進などを行う必要がある。